

村のがまだしモン^{NO.21}

本村で活動している
「※地域おこし協力隊」のメンバーをご紹介します。

※人口減や高齢化が進む地方で、都市部の人材の定住・定着を促し活性化を図る目的で、2009年度に創設。任期は最長3年で、年間の報酬と活動経費は、国から支給される。

神奈川県より応募

やまうち けんせい 山内 健正さん



生まれは熊本市、両親の転勤で多くの地域を回っていたとのこと。村には小学6年生の時、白水小学校に在籍していたそうです。今年結婚して白水地区に家を借りて子供1人の3人で生活されています。隊員募集は友人から聞いたとのこと。2年間長野県でマウンテンバイクの選手として多くの大会に参加した経験を活かし、観光に関わり、自転車の普及に力を入れたいと

思い応募されました。

隊員としての仕事は地域経営組織推進プロジェクト業務に従事し、村内でアウトドアイベント等の運営支援やレンタル自転車の運用環境の整備などを行っておられます。以前の経験を活かしマウンテンバイクの整備やアウトドアアクティビティのイベントの企画に取り組んでいます。3年間の隊員任期後を考えて、あそ望の郷のチャレンジストアを借りて自転車の修理、販売を始めたそうです。今後、自転車を利用される観光客が増えることを期待したいと思います。

(取材者/栃原 辰郎委員)

神奈川県より応募

くりした さだ ゆき 栗下 定行さん

神奈川県出身の栗下さんは、15年前に旅行で南阿蘇に来られています。その時の村の印象を聞くと、山が近く、雲が近い、こんな所は、北海道にも長野にもないと言われました。協力隊の事は、以前の仕事で庁舎など回っていたので知っていたそうです。

地震で被災した地域の復旧に協力したい気持ちがあったので、村への移住を決めたとのこと。協力隊の仕事は、南阿蘇鉄道復興支援プロジェクトに従事されています。南阿蘇鉄道株式会社において、以前の建設関係の経験を活かし、鉄道運行に欠かせない、保全業務や管理に取り組んでおられます。協力隊員

としての任期は令和4年3月までですが、その後の希望を尋ねたところ、できればこの仕事を引き続きやっていきたいとのことでした。南阿蘇鉄道が再開して多くの方が乗車され、楽しんでいただけるように、1日も早い復旧を願っています。



(取材者/栃原 辰郎委員)

編集後記

今年の夏の暑かった思いも過ぎ、いつしか冬の気配を感じるこの頃です。コロナ禍でどこにも行けず、村内で美しい紅葉を見たり、穫れたての新米、季節の美味しい産物を食べていただけたかなと思った秋でした。

今年はインフルエンザ対策・コロナ対策と気が抜けない冬になりそうです。村民の皆様も健康管理に留意してください。

今期の議会だよりもあと1回の発行になります。皆さんが読みやすい紙面づくりを最後まで委員全員で頑張る所存です。 笠野 真喜

議会広報特別委員会

委員長 丸野健一郎
副委員長 太田 吉浩
委員 笠野 真喜
〃 今村 竜喜
〃 栃原 辰郎
〃 今村 輝宏

発行責任者

議長 荒牧 俊一